

1 単元名 大切な本をしょうかいしよう ～6年2組 名作34選～

2 単元の目標

○これまでの読書生活を振り返り、自分の大切な本について紹介しようとする。

(国語への関心・意欲・態度)

○本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

(読む能力)

○紹介するときの文の特徴や工夫など、表現の工夫に気付くことができる。

(言語についての知識・理解・技能)

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・今まで読んだ本の中から紹介したい本を選び、本とのつながりや自分の思いが伝わるように工夫して紹介しようとしている。	・本を読み返すことや「大切な一冊」の紹介を通して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)	・要約や引用などの工夫について気付いている。(イー(ケ))

4 単元について

(1) 言語活動と扱う教材

本単元は、4年『読書発表会』をしよう、5年『図書すいせん会』を開こうを受けて、自分の読書経験を振り返り、それをもとに交流して読書の幅を広げるための単元である。児童一人一人がこれからの読書生活をより充実させるためのきっかけとなるようにしたい。そこで、単元のゴールには「大切な一冊」についてクラスの友達と紹介し合うという言語活動を設定した。本単元の活動を通して、今まで読んだことのある本を再度読み返したり、なぜこの本は自分にとって大切なのか考えたりすることができる。また、単元の最後に児童同士の交流をもつことで、より多くの本と出会うことをねらいとしている。

しかし、グループでの紹介活動だけで終わりにしてしまうと、本単元の最後に児童が新しく出会う本の数は5冊程度となってしまふ。そこで、一人一人が選んだ本を、「6年2組 名作34選」としてリストに残し教室に置き、この単元が終わってからも、いつでも児童が手に取れるようにする。朝読書の本を選びたいとき、次に借りる本に迷ったとき、この「6年2組 名作34選」を活用することで、より多くの本と出会い、様々なジャンルの本に興味をもつことができるだろう。また、友達の好きな本を知ることや、自分との考え方や感じ方の違いを知ること、読書の楽しさを味わうことができるだろう。単元を通して並行読書を行うことで、本と触れ合う時間が増えるとともに、紹介活動を通して新たな本との出会いにつながることを期待している。

紹介するときに参考になるのが、教科書に掲載されている梨木香歩さんと若田光一さん、そして二人の児童の文章である。これらの紹介文は、本からの引用を使いながらあらすじを書いているもの、本が自分の仕事にどのように役立ったかを交えながら紹介しているもの、小さいときに出会った本を選んで紹介しているもの、友達という共通テーマで二冊の本を紹介しているものとなっている。これらの文章を読むときに大切にしたいのが、「なぜこの本は筆者にとって大切なのか」という筆者の思いを想像することである。筆者が本を選んだ理由を確認することで、児童は「好きな本」ではなく、「大切な本」という視点をもって選書することができる。

できるだろう。紹介するときにも、選んだ理由を示すことで、自分と本とのつながりが相手に伝わるようにしたい。また、要約や引用などの表現の工夫についても確認し、紹介するときに必要な児童が一つの方法として取り入れられるようにしたい。

## (2) 言語活動を通して身に付けさせたい力

本単元は、学習指導要領第5学年及び第6学年の「C 読むこと」の目標「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」や、指導事項「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」を受けて設定している。

自分と本のつながりを見つめ直し、自分にとって「大切な一冊」を紹介する活動は、ただ「おもしろい」「好きだ」と思っていた本が、自分にとってどのような存在で、自分にどのような影響を与えたのか、改めて考えることにつながる。また、友達が今までどのような本に刺激や影響を受けてきたのかを知る貴重な機会にもなる。このように、「大切な一冊」を紹介する活動とそこへ向かう過程において、自分の考えを広げたり深めたりすることができると思う。この単元が終わるとき、友達が紹介した本を手にとってみたり、自分が読んだときの感想を話したりする児童の姿が見られるようにしたい。

自分の「大切な一冊」を選んで紹介するためには、その本に対する自分の考えや思いを言葉にする必要がある。これまでに学習した要約や引用などの方法を使い、自分がなぜこの本を大切に思っているのかが伝わるように、紹介する力を身に付けさせたい。そのために、教科書の4つの文章について、「大切な一冊」となった理由や文章表現の工夫をまとめるワークシートを用意する。紹介するときの文章の特徴や工夫について気付き、それを自らの発表のときにも生かしてほしい。

「大切な一冊」を紹介し合う活動では、友達の紹介を聞く中で、同じ本を読んでも感じ方の違いがあったり、同じ理由でも選ぶ本が異なったりすることのおもしろさを感じてほしい。そのために、二次では、教科書に出てくる「うさぎのユック」を児童に読み聞かせる。「うさぎのユック」という一冊の本に対して、児童がそれぞれの感想をもつことで、紹介者との感じ方の違いについて考えるきっかけにしたい。同じ本を読んでも、「それぞれの感じ方があってよい」、「色々な考え方があっておもしろい」と児童が思えるようにしていきたい。

印象に残っている場面や言葉、全体を通して感じたこと、主人公に対する自分の考えなど、何を中心に本を紹介するかは、児童により様々である。内容が多岐にわたることが予想されるが、活動をより充実させるためには、児童の思いを大事にしなければいけないと考える。その思いが伝わるように紹介できるようにするため、前時ではどのように紹介するか考えながらメモを取る時間を設定する。引用したい言葉や、あらずじ、自分が大切に思っている理由などをメモに書き、それを参考にしながら紹介活動を行う。メモという形にすることで、「自分にとってなぜこの本が大切なのか」を伝えることから逸れないようにしながら、自分の言葉で自由に紹介できると考える。児童一人一人が、どのように紹介しようとしているかを把握し、個に応じた指導をしていきたい。

本単元を通して、自分の紹介する本を読み返すことで自分の考えを深め、改めてその本の良さを味わってほしい。さらに、友達との交流を通して、見方や考え方の違いを楽しんだり、新しい本との出会いを喜んだりする心を育てたい。

(3) 本単元を支える日常的な言語活動

① 朝の読書タイム

本校では、週に一度、朝の読書タイムが設けられている。クラス全員が席に着き、集中して読書をする時間を設けることで、普段はなかなか本を手にとらない児童も本に触れる機会ができる。児童がより本を身近に感じ、読む本を選びやすくするために、普段から学級文庫だけでなく、そのときどきの学習に関係する本を教室に置いたり、担任がおもしろいと思った本や最近人気の本を紹介したりしている。より多くの本を目にすることで、自分にとって「大切な一冊」を選ぶための素材が増え、思いの込もった一冊を選べるだろう。

② 読書の記録

本学年では、自分が読んだ本の題名と作者、感想を一言記入する「読書の記録」をつけている。しかし、それを見ていると、同じシリーズの本や同じ作者の本を選んで読んでいる児童が多い。そこで、児童が少しでも前向きに読書ができるよう、読んだ本を「読書の記録 6の2版」として掲示する場を設けた。児童は自分が本を読むごとに、読んだ本が文字として積み重なっていく喜びを感じられる。また、友達の読んだ本が目に見えることで、自分が読んだことのないジャンルに挑戦したり、反対に、まだ誰も読んだことのない本を探して読んだりすることにもつなげることができる。この単元が終わった後、この読書の記録に書かれる本が増えていくことを期待している。

③ 教師の「大切な一冊」紹介

担任が単元の始めに「大切な一冊」の紹介を行うことで、児童に単元のゴールのイメージをもたせる。また、担任以外の、児童にとって特に関わりの深い先生方にも「大切な一冊」の紹介をしていただく。それにより、ゴールのイメージをより鮮明に思い浮かべることができるだけでなく、選書の仕方や紹介の仕方などを楽しく学ぶことができるだろう。自分とつながりの深い本を選んでいて、本に対してそれぞれの思いや考えがあること、そして、どのような表現の工夫を取り入れて紹介しているかに着目させて聞かせたい。

5 児童の実態 (略)

6 単元の指導計画 (全6時間)

次	時間	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価 (評価方法)
一次	1	○教師の「大切な一冊」についての紹介を聞く。 ○教科書を読み、自分にとって大切な本を紹介するという本単元の活動について、見直しをもつ。	○学習のゴールがより明確に見えるようにするため、教師が本の紹介を行う。 ○児童の読書カードや図書カードを活用して、友達に紹介したい本を思い出せるようにする。
	(時間外)	(○本を読み深める。)	(○1時間目と2時間目の間をしばらくあけ、本を読み深める時間を確保する。)
二次	2・3	○教科書の文章を比べて読み、気付いたことをまとめる。 ○気付いた特徴について発表し合う。 ○紹介するときに取り入れられる工夫についてクラスでまとめ、確認する。	○教材文を活用して、要約や引用の仕方などを確認する。 ○紹介するとき実物がある方がよいことを押さえ、紹介する当日のための準備を促す。 ○紹介する際に、ここで挙げた工夫を取り入れられるよう、掲示として残す。 ○次時まで「大切な一冊」を決定することを伝

			並 行 読 書 ・ 本 の 紹 介	える。 ○一冊に絞れない場合は、教科書の例のように二冊でも良いということを伝える。 ◇紹介するときの文の特徴や工夫について気付いている。(発言、ワークシート①・②)
	4	○紹介の仕方を考えながら、自分が選んだ本を読み返す。 ○紹介するときに必要な事柄についてメモを取る。		○紹介するときの自分のめあてを考え、それに向けて必要な箇所を選んで読むことを確認する。 ○引用したい部分など、紹介するときに必要な箇所についてはメモをとることを伝える。 ◇大切な一冊を読み返すことで、自分の考えを深めている。(ワークシート③) ◇本を読んで、要約や引用など表現の工夫を取り入れようとしている。(ワークシート③)
三次	5 (本時)	○「大切な一冊」を紹介し合い、互いに感想を交流する。		○実物を見せるなどの工夫も取り入れられるよう助言する。 ○紹介するときのポイント、聞くときのポイントを確認する。 ◇本の良さや、自分の思いが伝わるように工夫して紹介しようとしている。(発表) ◇大切な本の紹介を通して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(発表、ワークシート④)
	6	○友達の「大切な一冊」から本を選び、読書を楽しむ。		○本の良さを感じたり、友達との考え方の違いを楽しんだりしながら読むことを確認する。

## 7 本時の目標と展開

### (1) 本時の目標

- ・本の良さや自分の思いが伝わるように工夫して、自分の大切な本について紹介しようとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ・今までの読書経験をもとに「私の大切な一冊」を紹介し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。  
(読む能力一オ)

### (2) 本時の学習活動

- ・本の良さや自分の思いが伝わるように工夫して、「私の大切な一冊」の紹介をする。
- ・今後の読書生活につながるように、友達の「大切な本」の紹介を聞き、質問や感想を通して交流する。

### (3) 本時の展開 (5 / 6)

学習活動	指導や支援の手立て ◇評価 (評価方法)
1 今までの学習の流れを確認し、本時の見通しをもつ。	○掲示を用いて今までの学習を振り返り、この学習を通しての目的を確認する。
「私の大切な一冊」を紹介し合おう。	

## 2 紹介の仕方について確認する。

○今までの紹介文を振り返り、自分にとっての「大切な一冊」を相手に伝えるための発表であることを確認する。

### <紹介するときのポイント>

- ・自分にとってなぜ「大切な一冊」なのか、本に対する自分の思いが相手に伝わるようにする。
- ・自分の思い伝えるための表現の工夫を取り入れる。(引用や要約など)

### <紹介を聞くときのポイント>

- ・友達にとってなぜその本が「大切な一冊」なのかを考えながら聞く。
- ・自分の思いや感じ方と比べて、同じ点や違う点を探す。

## 3 グループごとに、「私の大切な一冊」を紹介し合う。

### <紹介の流れ>

- ① 「私の大切な一冊」について紹介する。
- ② 質問したり感想を言ったりして交流する。
- ③ 時間があれば、自分の本をもう一度読んだり、友達の本を読んだりする。

## 4 学習の感想を書き、発表する。

○「私の大切な一冊」の紹介を通して考えたことや、友達の紹介を聞いて思ったことをワークシートに書く。

○ワークシートに書いたことを発表する。

## 5 学習のまとめをする。

○あらかじめグループを分け、発表の場を作っておく。

○紹介するときのポイントと聞くときのポイントを、掲示物を使って確認し、児童自身が紹介するときのイメージをより明確にもてるようにする。

○感想や質問をし合うときは、ポイントに沿って行うことを意識するように伝える。

○事前に4～5人のグループに分けておく。グループを作る際は、普段の読書の様子やアンケートの結果を踏まえ、読書量が多い児童や本が好きな児童が偏らないように配慮する。また、似たような理由で本を選んでいる児童を同じグループにする。

○発表が終わった後の交流がなかなかできていないグループには、みんなで本を開いてみたり、交換して読んでみたりすると良いことを伝える。

◇本の良さや、本に対する自分の思いが伝わるように工夫して紹介しようとしている。(発表)

○本単元の活動を通して、自分の考えを深めたり、友達の紹介を聞いて考えを広げたりしたことを感想に書くように助言する。

◇大切な本の紹介を通して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(発表、ワークシート④)

○児童が紹介した本を「6年2組 名作34選」のリストにして、紹介した本とともに教室に置くことを伝え、今後の読書につなげられるようにする。

○次時は、本時で紹介された本の中から手にとって読みたいものを選び、読書を楽しむ時間にすることを伝える。